

## 令和2年 総合交通対策特別委員会 行政視察報告

### 〔参加委員〕

委員長 土屋俊重

副委員長 江本信彦

委員 中條壽一 市川稔宣 小林貴幸 小林松子 土屋啓子 三石義文

1 視察日時 令和2年11月13日（金）午後1時～2時30分

2 視察先及び視察事項 木曾郡木曾町 生活交通システムについて

### 3 視察概要

佐久市における公共交通手段である循環バスやデマンドタクシーについては、当委員会において調査研究を重ねた結果を平成30年12月に政策提言としてまとめて提出した。そのうちの循環バスの南北系統の統一などいくつかの事項が実現し、利便性の向上が図られているところであるが、利用者の減少や運転手確保の問題など、様々な課題を抱えている。木曾町は、人口規模は違うものの、合併により地域が広がり、沢伝いに集落が点在するなど、佐久市と類似の点があるなかで、地域住民の意見を反映した交通体系づくりに取り組んでいるということで、現状や課題について学ぶため、視察を行った。

ア 対応 企画財政課 企画係長、主査

#### イ 内容

木曾町は平成17年11月1日に4町村が合併、面積が476㎢あり、県内の町村では最も大きい町で、約90%を山林が占めている。

合併前の公共交通の状況は、旧町村単位で様々な交通施策が混在し、旧町村間でのサービス格差が顕著であった。路線バスの利用者の運賃負担がかなり高額であり、このため、利用者が減少し、便数が削減され、悪循環に陥っていた。これらのことから、合併するに当たり、新しい生活交通システムの構築が必要とされていた。合併後に有識者を迎えての検討委員会の協議や住民アンケート結果から、現状の問題点を洗い出し、対応の方向性について整理した。この取り組みが国土交通省「公共交通活性化総合プログラム事業」に採択され、乗り換え拠点の「ミニバスターミナル」を設け、市街地までの基幹バスと末端部の支線バスとに分け、利用者を組み合わせて町内を移動できる「ゾーンバスシステム」の導入を決定した。運賃は幹線バスが1回200円、巡回バス、乗合のデマンドタクシーが1回100円になるなど、大幅な負担低減となっている。

## 木曾町交通体系の枠組み

### ゾーンバスシステムの導入

**幹線バス**  
地域の交通網の主軸となるバス。木曾福島市街地から、旧3町村の中心部までを連絡

**巡回バス・デマンド乗合タクシー（補助システム）**  
地域内々の移動や、幹線バスとの乗り継ぎのために運行  
巡回バス、デマンド乗合タクシーを地域にあわせて導入

**乗継ぎポイント**  
各地区の支所など主要地点で幹線バスと補助システムの結節を行う

木曾町生活交通システム  
時刻表

木曾町生活交通システム 0264-22-4287

バスに乗ってみましょう!

1. 乗降時刻表、乗車券を確認して乗車しよう
2. バス停でバスを待たせよう
3. バスが来た時に乗車しよう

バス停で待たせよう

乗降時刻表を確認しよう

乗車券を確認しよう

ウ 考 察

木曾町では、国の支援策を活用して、住民の声を反映させたゾーンバスシステムを構築し、地域住民の利便性の向上に取り組んでいる。佐久市では機能集約・ネットワーク型のまちづくりの為に拠点間の接続を強化する必要がある。利用者が減少している路線については、利用する人達の利便性を損なう事が無いように、様々な角度から先進的、合理的な取り組み内容の情報を収集したうえで、優れた知見を活用しながら新たな公共交通プログラムを構築し、交通の活性化を図る必要があると考える。

